

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	52
学校名	富山県立ふるさと支援学校

学校の現状と課題	本校は、隣接するNHO富山病院に入院する病弱者である児童生徒を対象とした病弱特別支援学校である。本校の小・中・高等部の児童生徒の多くは、心身症や適応障害等の精神的な疾患を有し、前籍校で不登校や保健室登校を経験している。自己理解や人間関係作りに課題があり、自己肯定感の低さ、学習空白による学習の遅れへの不安も多く見受けられる。そこで、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する知識、技能、態度及び習慣を養うために、自立活動の時間における指導の充実が求められており、教員の専門性や指導力向上が必要であると考えた。	
テーマ(特色)	病弱特別支援学校における自立活動の指導の充実	
設定した「テーマ」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学部やグループ分かれて、自立活動の指導の充実について研究を行った。 ・大学から外部講師を招へいし、障害特性に応じた自立活動の指導の充実について研修を受けた。 ・自立活動の授業で活用できる教材や書籍を購入し、児童生徒への実際の指導に活用した。 	
実施内容 (具体的に記入する)	<ul style="list-style-type: none"> ・学部ごとに、児童生徒の実態把握、目標設定、手立て、学習計画立案を行った。 ・中学部、高等部では、学部を縦に割って研究グループを編成し、グループごとに研究を進めるようにした。 <ul style="list-style-type: none"> ・対象児童生徒をグループごとにあげ、検討会を2回以上実施した。 ・検討会①では、実態、目指す姿について共通理解を図り、指導方法について検討を行った。 ・検討会②では、グループ構成員全員が当該児童生徒の授業のアイデアを持ち寄り、アプローチの仕方について意見を述べ合った。 ・校内事例集を作成し、活用している。 ・外部講師を招いた研修会を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ①8月27日 講師 東洋大学文学部教授 谷口明子氏 内容 「病弱児童生徒の社会的自立に向けた支援について」 ②11月11日 講師 明治大学文学部教授 諸富祥彦氏 内容 「カウンセリングの基本」 ・自立活動の教材・教具のほか、書籍を購入し、各自研鑽に使用している。 	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度購入した書籍、教材のほか、校内で作成した事例集も含め、参考にできる資料が増え、活用している教員が多くみられた。 ・外部講師による研修会後のアンケートでは、充実感を感じている教員が多かった。 ・中学部と高等部を縦に割ったグループでの研究は効果があった。 ・年度末のアンケートでは、グループでの協議は「非常に役に立った27.8%」「役に立った72.2%」、具体的には「当該生徒と関わりの少ない他学部の教員からの視点が、実態や状況を整理するのに役立った。」「支援を多角的に考える機会になった。」「チームで生徒を支援しているという実感がある。」などの声があった。 ・年度末のアンケートではほかにも、指導力の向上に関して今年度の取組は「非常に役に立った15.4%」「役に立った80.8%」「どちらともいえない3.8%」、自立活動に対する苦手意識の軽減について「大幅に軽減された11.5%」「やや軽減された61.5%」という回答を得た。 ・総合的にみて、指導力・専門性の向上について成果があったと考える。 	
対象者(学年・人数など)	教職員 29名	
実施実績	4月	中学部・高等部・訪問教育の各学部ごとに研究。
	5月	↓
	6月	中学部と高等部は合同でグループを編成し、研究。訪問教育は引き続き学部で研究。
	7月	↓
	8月	外部講師による研修会①
	9月	↓
	10月	↓
	11月	外部講師による研修会②
	12月	↓
	1月	↓
2月	研究のまとめ	
3月	↓	